グアム日本人学校から

【航空教室】全日制

日本航空(JAPAN AIRLINES)様ご協力のもと、中学生を対象に「航空教室」を開催していただきました。今回は、生徒たちが島を離れる際に何気なく利用しているグアム国際空港で働いている人々の様子を見学させていただいたり、その仕事を実際に体験させていただきました。それらのことを通して、航空会社の仕事理解を図るとともに、生徒たちが自分の将来を考える一つのきっかけに繋げることを目的にしました。

まずは、駐機場に到着する飛行機を間近で見学させていただきました。轟音をたてて迫ってくる大きな飛行機に生徒たちは圧倒されていました。その後、整備士の方から機体についての説明をしていただきました。飛行機が安全に航行できるよう、様々な工夫がされていることに気づきました。

次に、空港のオフィスにて、スタッフの「ブリーフィング」に参加させていただきました。飛行機を利用するお客さまが安全に、そして快適に過ごしていただくよう、スタッフ全員で一つひとつ確認をしていました。バラバラではなく、チームで協力して仕事をすることの大切さを実感させられました。

ブリーフィングが終わったら、「機内清掃」やお客さまの預け荷物へ「荷札付け」を体験させていただきました。機内ではシートや座席前の棚を整理整頓したり、チェックインカウンターでは、お客さまから預かった荷物を運んだりしました。飛行機が着陸して、再び飛び立つまでの短い時間でスピーディーに行わなければならず、仕事の大変な側面も実感することができました。

その後、パイロットさんやCA(客室乗務員)さんのお話を直接伺ったり、質問したりする機会を設けていただきました。将来航空会社で働きたいという目標を持っている生徒にとっては、憧れの職業についている方とお話ができる夢のような時間となりました。

最後に、搭乗アナウンスとお客さまの搭乗券の確認を行い、自分たちがかかわった飛行機のお見送りを行いました。一生懸命手を振りました。機内からはパイロットさんやたくさんのお客さまが手を振り返してくださり、生徒たちは非常にやりがいを感じることができた時間となりました。

生徒たちは、今回のこの経験を今後の進路を考える際に活かしていってほしいと思います。本当にありがとうございました。

中学部主任　萩尾　寿隆

【ミニ・サイエンス教室】補習授業校

その日、理科室は大入り満員。子どもたちは目の前で起こる不思議な現象に夢中でした。

11月24日(土)の昼休み、補習授業校ではミニ・サイエンス教室を行いました。これは、大阪成蹊大学の先生方が展開する小規模タイプのサイエンス教室で、今回で3年目。本校恒例の行事です。

小学部の児童がペットボトルを手で押すたびに、中に入れてある「しょうゆさしの魚」(浮沈子・ふちんし)が浮いたり沈んだりします。「どうしてだろう？」先生が「中の空気が押されて小さくなって…」と浮力の説明をすると、「ふーん」と納得いった様子ですが、不思議そうです。

今度は、運動量保存の法則を、金属球の振り子で遊びながら実験します。球を1個当てると反対側から1個の球が飛び出します。2個当てると2個動きます。「4個当てたらどうなるかな…？」子どもたちの予想通り、4個の球がまとまって動きました。

別の場所では、ウーロン茶のペットボトルにお茶(の色をした水)が入っています。このボトルに秘密の液体を入れてから、ペットボトルを投げると…。それをキャッチした瞬間に、お茶の色が消えて透明になりました。（秘密の液体はビタミンCの水溶液、お茶に見えたのは「うがい薬」の液なのだそうです。）

音叉(おんさ)を鳴らして、離れた音叉からも音を出してみたり、声の高さを変えてみると丸いゴム風船の中の小さなビーズ玉が動いたり動かなかったり。これは音の共鳴の実験です。

また、長いゴム風船に羽をつけて遠くまでまっすぐ飛ばす方法を試してみました。これはジャイロ効果の応用です。

さらに、ペンライトで感光紙に文字や模様を描いてみたり、等々…。

今回のミニ・サイエンス教室では、見るだけのショーではなく、子どもたちが自分の手でさわり、試してみて、「なぜ？」の疑問から知的好奇心を引き出し、考えることの大切さを実感してほしいとのねらいから行われました。説明の中心となった大阪成蹊大学の福岡先生は、マジックやコメディを交えながら興味深く展開します。子どもたちは知らず知らずのうちにサイエンスの世界に引き込まれてしまいました。

約40人の子どもたち、また多くの保護者の皆さまのおかげで大盛況のミニ・サイエンス教室になりました。ご協力ありがとうございました。

補習授業校では、来年3月にも規模を少し拡大してサイエンス教室を実施する計画です。子どもたちは楽しみにしています。

最後に、わざわざ日本からお見えいただいた大阪成蹊大学の芝野先生、福岡先生、赤沢先生のご尽力に感謝申しあげます。

校長　井澤　恒晴